

(46) 栃木県矢板の高原山の黒曜石－追記

高原山の黒曜石の再探査と、GPSによる経路ログの取得をかねて出かけることにした。が、その前に、キーワードでネット検索すると、参考文献(1)にたどり着いた。文献は考古学的視点からのものであったが、現地には黒曜石の巨岩があることがわかった。今回はこの巨岩を確認することも課題とした。連続する2回ほどの探査行で、しっかりした経路ログの取得とともに、巨岩を確認した。沢には、注意すれば結構な黒曜石の転石がある。それはそうであろう、山全体に黒曜石が分布しているらしいので。どうも高原山は火山らしい。登山中に通過した「大入道」の頂上は丸く大きく凹んだ地形となっている。旧火口であったのかもしれない。高原山全体にはいくつものハイキングコースがある。今回紹介している経路は、そのうちの一つでもある。高原山の登山案内書を手に入れて、参考することを勧める。

2022年6月



図1 矢板中心部から30号に入る。北上し、八方ヶ原を目指して56号に入り、北上していく。青色曲線が経路ログ。高原山の赤輪の当たりの沢で黒曜石の転石がよく見られる。



図2 図1の部分拡大図。なお経路ログは2回分を重ね描いている。P1(山の駅たかはら), P2(小間々台), P3(大間々台)に駐車場がある。本探査ルートは高原山の登山ルートと重なっているため、高原山の登山ガイド地図を参考にすることを勧める。1回目はP1に駐車し、そこから歩いた。当日、P2へは車多数のため進入禁止となっていたので、ツツジの時期で勝つ休日であった。2回目は平日でもあったのであろうP2に駐車できた。そこから歩いた。

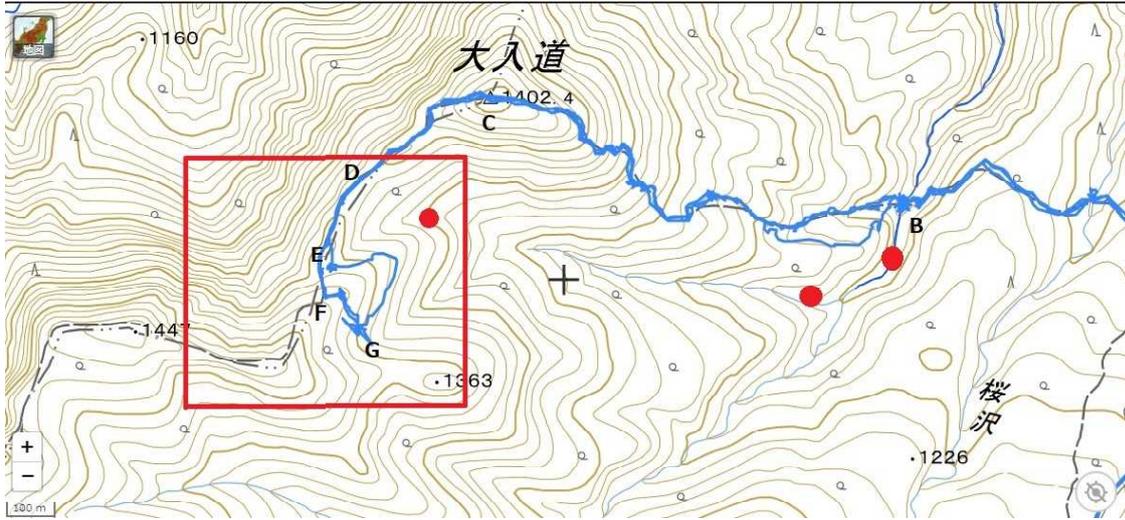


図3 図2の部分拡大図。赤丸は既報で紹介した黒曜石の転石を確認した箇所。赤四角の部分拡大した図を図5とし、参考文献からの現地図である図4と対応させている。

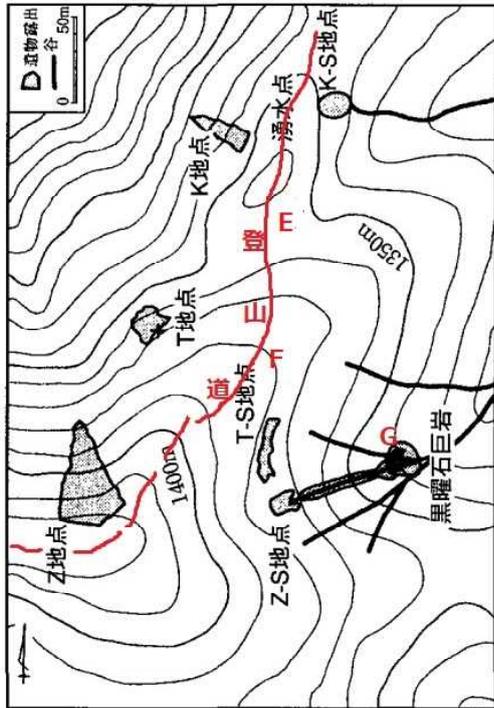


図3 遺物露出地点の概略位置

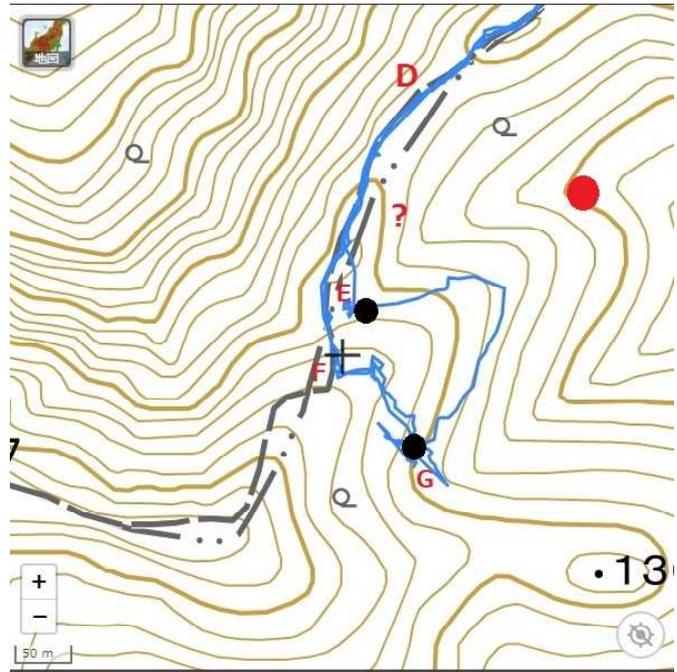


図4 参考文献(1)中の現地図。図5と対照すること。原論文では、北方向を図面上方向ではなく、右側にしていたので、ここではそれを90度左回転して貼り付けている。文字列が傾いているのはそのためである。探査の結果から、推定した登山道、位置記号を赤色で書き加えている。

この尾根上の登山道の西側斜面は急斜面である。それに反して東側斜面はなだらかであり、クマザサが生い茂っているが、比較的歩きやすい。

図5 図3の更なる拡大図。図4と対照できるように大きさを一応合わせている。E点のところの黒点が「水場」。G点のところの黒点が「黒曜石の巨岩」である。?印の所は参考文献が記している「湧水点」の位置になるが、E点の所の水場をそれと判断して、?点の所の確認をしなかった。本稿を書いている時にそれに気がついたのである。後の祭り。次回には、確認したい。今のところ、図4中の湧水点(K-S地点)の位置の書き込み間違いであり、E点の位置の所と推断しているが。

鉾山跡写真



写真1 「山の駅たかはら」への入り口。
前方がP1の所である。



写真2 舗装の行き届いた林道を登ってきた。
前方右手にあるのが、小間々台駐
車場。P2点である。ここから歩くのが
便利。



写真3 図中のA点である。大入道への
登山道と桜沢との出会い。



写真4 図中のB点である。大入道への
登山道と桜沢の北側にある無名の沢との
出合。この沢には、結構黒曜石の転石が
ある。



写真5 図中のC点。大入道の頂上付近に登り上がってきた。右手は広く大きな窪地となっている。このような地形が山の頂上にあるとすれば、「火口跡」か？



写真6 D点付近の登山道の尾根上にあった「縄文??」の看板。



写真7 図中のE点付近。尾根歩きの登山道から東側下斜面に水場が見えている。赤輪の所。



写真8 そこへ下って、下から水場を見上げている。今回は梅雨時期であったが、渇水期にも水が出ているのであろうか？

図4にはK-S点を湧水点としているが、探査結果である図5のE点の黒丸の水場の位置とはズレている。探査後、結果をまとめている時に気がついた。図5中の?記号の場所は次回に確かめたい。



写真9 G点である。上流側から巨岩を見ている。



写真10 G点である。下流側から巨岩を見上げている。幅は5 m以上もありそう。黒曜石の巨岩と言っても、品位は低い。その低品位の御陰で、縄文人から見捨てられたことが、現在に姿を残すことになったのであろう。逆に考えると、この付近に結構高品位の黒曜石が出たことを裏付けてもいる。

参考文献

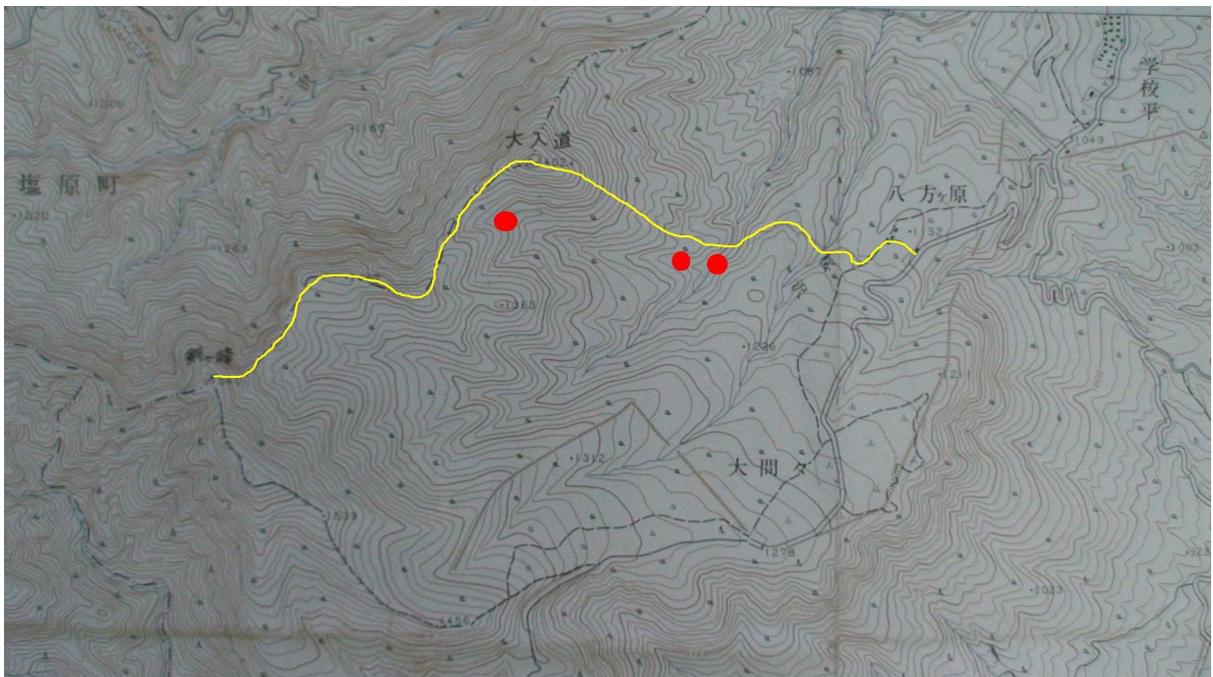
(1) 「栃木県高原山黒曜石原産地遺跡群の発見とその評価—今後の調査に向けての課題—」、田村、国武、大屋、日本考古学、第22号、2006年。

(46) 栃木県矢板の高原山の黒曜石

栃木県立博物館には、非常に豊富な鉱石・岩石展示室がある。栃木県の鉱石・岩石に関するコーナーもある。その中の1つに高原山の黒曜石についての展示説明があった。栃木県矢板地区の高原山の黒曜石は特徴的なまだら模様を有している。関東一円の旧石器時代から縄文時代に至る遺跡から、この高原山産の黒曜石が遺物として採集されており、当時の地域交流の広さを裏付けている。地理的に見れば、黒曜石を産出する高原山の山麓は、定住できるような地域ではないので、黒曜石をとるために、遠路はるばるこの山に登ったことを伺い知ることができる。

高原山への登山も兼ねて、博物館のパンフレット⁽¹⁾を手引きに、黒曜石の探査に出向いた。剣が峰→大入道→八方ヶ原への下山途中で、三箇所黒曜石を採取することができた。地図中の黄線は「山と高原地図12 那須・塩原」⁽²⁾から引用した登山道。赤丸が黒曜石を採取できた箇所である。何れも沢中である。注意深く沢を観察すると、それほど困難無く見つけることができる。参考文献によれば、剣が峰と大入道の間当りから大入道までの尾根全体が黒曜石の原産地のようなのである。右側の2つの赤丸箇所は沢の下である。原産地からの転石であろう。左側の赤丸の当りをじっくりと探査するのも良いであろう。尾根の北側には未だ探査に行っていない。スッカ沢を遡って探査するのも面白そうである。

下に掲載している地形図には、見てわかるように、詳しい登山ルートが記載されていない。探査に出かける場合には、上掲した類の登山地図が必ず必要である。その登山地図と、ここで紹介している地形図を重ねあわせると良い。



赤丸で黒曜石を採取。黄線は登山道

地図 国土地理院地形図2万5千分の1地形図「高原山」

探査日 2009年10月

参考文献

(1) 栃木県立博物館発行の「とちぎ石ものがたり 一人と石の文化史」

地図中の黄線は「山と高原地図12 那須・塩原」(昭文社 発行)

(2) 「山と高原地図12 那須・塩原 2008年版」昭文社。

採集岩石写真

黒曜石は鉱物ではなく岩石に分類されているようです。旧石器時代及び縄文時代などに、この岩石を打ち欠いて、鏃（やじり）や斧や包丁の刃にしていた。

品名	黒曜石
色	黒色、褐色、その他
光沢	黒色でガラス光沢
解説	高原山産は斑晶や球顆がやや多いことが特徴。石器材料とするのにはある程度選別が必要



採集物です。解説の通りです。